



診察室から

院長 福田 雄高

長い暑い夏が過ぎたと思ったら、秋の爽やかさを感じる日は非常に少なく、急に寒い季節になりました。急に年末がやってきた印象です。

日々外来で定期検査を行っています。脳梗塞、脳出血やくも膜下出血など脳卒中になる前のチェック（予防）、なった後のフォロー、脳動脈瘤増大の有無、脳腫瘍であれば再発や、腫瘍増大がないかなど確認していくことになります。

主に外来でやっている定期検査の内容をまとめたいと思います。

① 脳血管障害

- ・脳梗塞、脳出血 頭部MRI、MRA（脳の動脈のMRI）、頸動脈超音波、血管年齢検査（CAVI）、採血検査（糖や脂質のチェック）
- ・くも膜下出血後、脳動脈瘤 頭部MRI、MRA、時に頭部造影CT
- ・脳の動脈の狭窄 頭部MRI、MRA、時に頭部造影CT
- ・頸動脈狭窄 頸動脈MRA、頸動脈超音波、時に造影CT



② 脳腫瘍 頭部MRI、腫瘍の種類や形状によっては造影MRIも含めて

③ てんかん 脳波や時に頭部MRI、採血（抗てんかん薬血中濃度）

てんかんの方は、発作の予兆を示す脳波異常はないか、お薬はしっかり有効に効いているかなど確認します

④ 認知症、認知機能低下 頭部MRI、VS-RAD（海馬の萎縮度を示す）含めて、物忘れテスト（長谷川式テストなど）認知機能の変化、進行はないかなどチェックしていくことになります。

⑤ 外傷 慢性硬膜下血腫の再発、増大の有無など確認します

⑥ 生活習慣病 糖や脂質などの変化はないか確認します。

その他水頭症や脊椎疾患の術後なども定期画像フォローを行っています。

病気はなんといっても予防が重要と考えます。発症しない、再発しない、うまく治療ができる範囲内で留まる様にチェックしておくことは重要でしょう。どんな病気でもそうかとは考えますが、しっかり丁寧にフォローしている方は、大きな問題なく過ごされている方の割合が当然ですが多い様に感じます。病気によりませんが、検査だけしておけばいいというわけではなく、

日々の生活習慣や、薬剤加療が必要な方はお薬をのみ忘れない、積極的な活動（知的活動、人とのコミュニケーション、運動）などはもちろん大事です。来年も定期検査が必要な方は検査を行い、安心して頂ければと考えます。宜しくお願いします。

佐賀平野の夕暮れ。街中。

"Planta y siembra y cría, y vivirás con alegría." 「植え、蒔き、育てて楽しく暮らせ。」
農作や牧畜を基礎にすれば、心配のない人生をおくることができるであろう。備えあれば憂いなし。





摂食嚥下 勉強会



看護部 F・H



摂食嚥下看護認定
看護師

県内6名の内1名である
佐賀大学医学部附属病院在籍の看護師

◆ 摂食嚥下障害の定義

「食物の認知」や「口腔内への取り込み」「咀嚼」
「口腔から咽頭・食道を経た胃までの食塊の搬送」
の一連の機能に障害があり上手く摂食ができない
上記の内1つでも当てはまれば障害があるとされています。



3回に分けて学びました。

■ 第1回

摂食嚥下の基礎編

- ・口から食べる事の大切さや嚥下反射について
- ・嚥下障害のある方への訓練方法について

■ 第2回

認知症患者の嚥下障害編

- ・認知症のある方への食事をする時の対応の仕方
- ・食べる前のケアのポイント
- ・嚥下障害がある方への食事のポイント

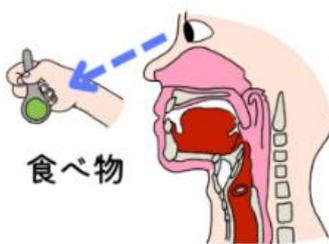
■ 第3回

安全な食事介助編

- ・嚥下障害のある方への食事、水分につけるトロミの選択
- ・食事介助方法

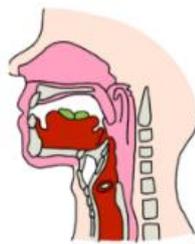
◆ 食べ物が胃まで運ばれる工程

認知期 → 準備期 → 口腔期 → 咽頭期 → 食道期

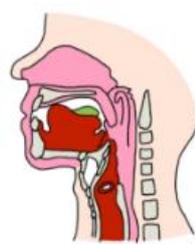


食べ物

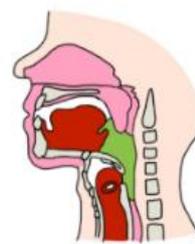
食べ物の認知
・食欲



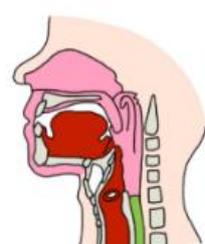
もぐもぐ



ロ・のどの
奥までスルッと



ごっくん!



食道から胃へ



勉強会に参加して

脳梗塞や脳出血などの脳血管障害に罹患している方の中には食事の食べづらさや水分の取りづらさ、また食べると咽てしまう方がいらっしゃいます。その方々が如何にして安全に食事を摂取できるか。

この仕事を始めてからよく耳にすることは「食事が楽しみ」という言葉です。

医療の発達に伴い胃瘻や経鼻経管栄養などの方法で、口から物を取り入れなくとも食事を摂取出来ます。しかし、口から食事をするのが人としての人生を全うする中で、とても大切であると感じています。その援助が少しでも出来るよう、今回学んだ事を活かして私達も努力していき行きたいと思えます。

冬はノロウイルスに要注意！

食中毒予防が必要なのは夏だけでなく、1年を通じて発生します。特に11月～2月にかけての**冬場**は、ノロウイルスによる食中毒が多発しています。ノロウイルスは非常に強い感染力を持っており、少量でも手や指、食品などを介して口から入ると、体の中で増殖し、腹痛やおう吐、下痢などの食中毒の症状を引き起こします。

◆ 主な感染経路

経口感染

接触感染

飛沫感染

空気感染

◆ ノロウイルス食中毒の予防4原則

持ち込まない



ノロウイルスによる食中毒を防ぐためには、調理場にウイルスを持ち込まないことが重要です。

つけない



食品や食器、調理器具などにノロウイルスを付けないように、調理などの作業をする前などの「**手洗い**」をしっかりと行いましょう。

拡げない



ノロウイルスが身近で発生したときには、感染を広げないために食器や環境などの消毒を徹底すること、また、おう吐物などの処理の際に二次感染しないように対策することが重要です。

やっつける



食品に付着したノロウイルスを死滅させるためには、**中心温度85℃から90℃、90秒以上の加熱が必要**です。

◆ おう吐物などの処理方法



①マスク、使い捨て手袋(2重)を着け、おう吐物を、乾燥する前にペーパータオルなどで除去する。
※できれば使い捨てビニールエプロン・ガウンまで



②ふき取ったペーパータオル、使用した1枚目の手袋、エプロンをビニール袋に入れて密封する。



③おう吐物の付着していた場所を浸すように塩素消毒液で消毒する。
※アルコールではノロウイルスは死滅しません!!



④使い終わった手袋、マスク、雑巾、②のペーパータオルなどをいれた袋を、別のビニール袋に入れて密封する。



⑤終わったら、せっけんを使って丁寧に手を洗う。

スタッフリレー

お題：私の好きな事（家族）

看護部 F・S

去年の10月に息子2人が自宅で飼っている犬の散歩中に子猫を見つけ保護しました。とても小さく手のひらサイズで震えて、小さな声で鳴いていました。

息子2人では対応に困り姉2人に相談したようです。

1日目 直ぐに段ボールの中に毛布を敷いて子猫を入れる。

次にミルクを与える為に娘2人も加わり哺乳瓶とミルクを用意する。2時間おきにミルクを与える。

2日目 息子と娘で動物病院に受診に行く。

だいたい生後1週間くらいでたぶん男の子、元気で大きな異常なし。

処置をしてもらい帰宅。その夜入浴し身体を整える。

その間もミルクは2〜3時間おきに与える。

3日目 いつの間にか生活スペースが出来ている。

（この時はまだ段ボールや犬用品で代用していました）

1週間後 猫用のトイレやお皿が準備される。

1年後 大きく育つ。

いつの間にか家族みんなで子猫を迎え入れる準備が整い無事家族の一員となりました。今では大きくなり元気に走り回っています。

そんな姿を先住犬は恨めしそうにしているのが我が家のいつもの光景です。



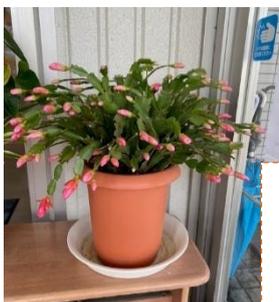
美化係



植え替え終了★



植え替え中★



シャコバサボテン
今年もたくさんの
つぼみがつきました。

花壇や植木鉢の花入れ替えを行いました。
春にはきれいな花を咲かせてくれる事でしょう。

みなさんお楽しみに！

